

まえがき

本書は、平成12年9月22日－24日の3日間、広島大学東千田キャンパスにおいて開催された第13回研究集会の報告書です。この度の研究集会は、日本計画行政学会第23回全国大会と重ねて実施されました。そのため、日本計画行政学会とともに地域経済研究推進協議会の二者の主催とし、地域経済システム研究センター、地方シンクタンク協議会中国・四国ブロック、中国地域シンクタンク協議会の三者は協力機関といたしました。また、大会の実施にあたっては、広島県、広島市、広島大学経済学部後援会から協賛いただきました。開催概要、大会主旨、実行組織と大会プログラムを冒頭に掲載しております。

研究集会（大会）のテーマは「21世紀の地域システムと計画行政」でした。これは経済のグローバル化や低迷、社会の成熟化や少子・高齢化といった大きな潮流変化に直面して、自治体や国の行財政システムや計画立案に抜本的な改革が求められていることに対応したテーマ設定です。この中では、青山学院大学の石川昭先生と広島県の藤田雄三知事に大会テーマに沿った主たる講演をいただき、香川大学の井原健雄先生のもとでシンポジウムA『地域間の交流・連携と新たな地域創生』、広島市立大学の樺本 功先生のもとでシンポジウムB『分権型社会の実現と行財政改革』を開催いたしました。本書には、これら2件の講演と2件のシンポジウムの内容を掲載しています。

また、当日はすべてで53件の研究報告が12のセッションに分かれて実施されました。各セッションにおいては、2名の座長を全国を代表する先生方に依頼して、お務めいただきました。本書においては、12のセッションのうち、例年の研究集会2日目の主旨に沿って企画した3つのセッション『地域行政報告』、『シンクタンク報告』、『経済団体報告』で報告いただいた14件の研究論文を掲載しています。また、巻末に3日目に実施いたしましたエクスカージョンの報告を掲載しました。

研究集会（大会）の参加者数は、1日目340人、2日目220人であり、全国各地や地元地域からも多くの参加者を得ることができ、また、充実した中味とともに無事、成功裏に閉会できたとも思います。日本計画行政学会の熊田禎宣会長からも、「産官学を見事に連携させた一つの典型としての大会」として高くご評価いただきました。これもひとえに、大会中に御登壇いただいた皆様方、座長や研究報告をいただいた方々、さらには、大会会長を務められた保野健治郎教授（支部長・近畿大学）、大会副会長の林憲 弘氏（地域経済研究推進協議会会長、中国経済連合会専務理事）をはじめとする大会役員の皆様方のおかげであると考えています。地域経済システムセンターが大会事務局を務めましたが、事務局長として、皆様方のご協力に厚くお礼申し上げます。

平成13年6月

広島大学経済学部教授
地域経済システム研究センター長 戸 田 常 一